

製紙用、土木用から食品用ラップの芯まで暮らしの芯となる紙管を製造 「HOKKAI MOKKAI」ブランドを立ち上げてリサイクル事業も身近なものに

長谷川 裕一 北海紙管株式会社代表取締役社長



はせがわ ゆういち
長谷川 裕一 氏

- 1966年 北海道名寄市出身
- 89年 北海紙管株式会社入社 東京工場、名寄工場、福島工場に勤務し、紙管製造部門及び古紙部門の現場・営業職を経験
- 94年 本社総務部 管理部門にて経理、財務、人事の総務職に従事
- 2001年 経営企画本部 新規サービスの開発部門にて新事業の企画に従事
- 02年 北海道地区統括兼経営企画本部長
- 06年 代表取締役社長に就任

北海紙管株式会社は、1958年に現社長の祖父長谷川留次郎氏が北海道名寄市で製紙用紙管の製造販売を始めたことからスタートする。1974年には、製紙業の原材料となる古紙の集荷と販売を始め、紙管と古紙リサイクルの2つの柱をもつ企業となる。

3代目の長谷川裕一社長は、2009年に古紙リサイクル事業にイメージ新を図るブランド「HOKKAI MOKKAI」(ほっかい もっかい)を立ち上げると同時に、社員の声を活かし

たユニークなアイデアで地域に親しまれるリサイクル企業を目指す。また、同業者との提携による全国ネットワークを構築、同時に古紙以外のリサイクル品の発掘にも力を入れる。

「会社の進む方向は、お客様や従業員が決めてくれます。公明正大（フェアネス）の精神で物事に取り組み、地域のリサイクルの芯となりたい」と、長谷川社長は語る。

北海道で製紙用紙管の製造販売を開始 関東進出、古紙回収・販売事業にも着手

——紙管製造と古紙回収の2つの事業の柱がありますが、スタートは紙管製造事業からですね。

明治生まれの祖父 長谷川留次郎は、富山県高岡市で製紙関連の仕事をしていました。50歳で仕事に区切りをつけ、製紙メーカーの北海道進出に伴って名寄市に移り、製紙用紙管の製造販売を始めました。製紙用紙管は出来上がった帯状の紙を巻き取るときの芯棒で、製紙工場では資材として必ず必要なものです。

祖父が60歳の時、1968年4月に北海紙管株式会社を設立し、翌月の5月には春日部市に東京工場を開設しました。

——なぜ春日部市に東京工場を開設したのですか。

祖父から事業の拡大を指示された父の長谷川^{のぼる} 昇 現会長が、東京の亀有、埼玉では八潮市や草加市など製紙メーカーが点在し、大きな市場の近くで製紙用紙管を供給することができる春日部を関東進出の拠点として決めました。福島県の前町にも紙管工場がありますが、やはりその近くに製紙メーカーがありま

す。

——会社設立から6年後には、古紙回収・販売事業も開始されていますが、紙管の原料を集めるためですか。

回収した古紙が製紙メーカーに供給されて紙管の原材料となり、紙管ができるという循環です。間に製紙工場が入りますが結果として古紙は紙管の原材料となりリサイクルが完成します。

北海道の札幌市白石区菊水で古紙回収を始めた頃は、まだリサイクルという感覚はありませんでした。その後、同業者を吸収しながら規模を拡大し、現在では菊水営業所は古紙回収の拠点となり、北海道での古紙取扱量はトップシェアを誇ります。

——紙管は、私たちの生活のどんなところに使われているのでしょうか。

家庭用ではトイレトペーパーや食品用ラップ、粘着テープの芯に使われています。産業用ではラーメンやレトルト食品のパッケージなどの包装用フィルムの芯として紙管が使われています。コンビニなどで売られているパンやおにぎりの包装用フィルムの芯にも紙管は使われていて、東日本大震災の時にはパンやおにぎりの需要が急増し紙管の製造も非常に忙しかったです。

その他、鉄道会社の自動券売機にセットされている切符になるロール紙の芯や自動車に設置が義務付けられている非常用発煙筒にも当社の紙管が使われています。

50年以上の歴史を持つ紙管の老舗メーカーとして培った製造技術で、内径・長さ・肉厚などどんな要望にもきめ細かく対応し、短期納入を実現しています。

また、「ホッカイボイド」、「プルボイド」という商品名の土木建設用の紙管も販売しています。コンクリートの円柱を建設する際に、



東日本全域と中国にも及ぶ同社の事業エリア

円筒型の紙管「ホッカイボイド」の内部にコンクリートを流し込んで固めた後、紙管を取り除くことによって、作業効率を大幅に改善できます。「ホッカイボイド」には、ホームセンターで販売するような一般的なものから、大小・長短の特殊なオーダーものまで豊富な種類を製造可能としています。仙台市のクリネックススタジアム宮城（楽天イーグルスのホームグラウンド）のコンクリートの大きな柱には「ホッカイボイド」が使われました。

「プルボイド」は、例えば鉄筋コンクリート建物の壁に建物の内部と外を繋ぐ円筒形の穴を確保するため、コンクリートを流し込む前に壁に紙管を設置し、その回りにコンクリートを流し込み、コンクリートが乾いたら紙管を巻き取って円筒形の穴を完成させます。また「プルボイド」の商品としての付加価値を高めるため、ワイヤーを引くだけで簡単に長さが伸びるワンタッチスライドスリーブ管を開発しています。

Hokkai Shikan 建築、土木の型枠材
ホッカイボイド
 円柱、円筒型の型枠材として、コンクリート工事の省力化、合理化のお役に立ちます。

チューブ管250φ~1,300φ (丸柱用)
スリーブ管50φ~300φ

特長
 ●真円型で垂直円柱造りに最適
 真円型の造形品ですので、コンクリート打込みで正確な円柱が作れます。基礎建が一本入っていますので、芯出しも現場で簡単になります。
 ●引離がよく、表面仕上げが簡単
 内面は、特殊フィルムで加工してコンクリートの剥離をよくしており、そのまま円柱の仕上げ面になります。
 ●強度・耐圧性が高く、加工性に富んだ品質
 ホッカイボイドは、特殊耐水樹脂を内層にも円筒に巻きつけた製品ですので、コンクリート打込み時の圧力に充分耐える強度をもっています。また、ノコギリでの切断や釘打ちなどの加工が簡単にできます。

特長
 ●軽量で、取扱いやすく、抜群の作業性が
 軽くて手際よく取扱いやすい、切断などの加工が簡単にできるため、現場作業の省力化に役立ちます。
 ●表面の樹脂加工により品質向上
 ホッカイボイドは、コンクリートへの粘着や文字書きなどが少なく、耐久性も優れています。
 ●用途は広く、様々な物に使えます
 各種配管、配線スリーブをはじめ、タドシュート、排水管、アンカーボックス、インフラ用など幅広い用途にご利用いただけます。
 ●青色印刷で仕上がりもきれい
 ホムセンターなどの要り場に陳列しても引き立つ製品で、充分な商品価値を發揮します。
 ●サイズ表示が大きく見やすくなりました。

250φ・300φはスリーブ管とチューブ管(丸柱用)の2種類を取り揃えてあります

各種オーダー生産
 ●2つ割加工もいたします
 RC、SRC工場の現場でご使用いただけるよう、2つ割加工も承ります。
 ●長尺物、カット加工
 ホッカイボイドは一本物の製品ですが、ご注文に応じて必要な長さでの製造も承ります。
 ●人通り用ボイド(※州地区)
 チューブ外周に特殊フィルム加工を施した人通り用ボイドも受注承りました。

◎北海道紙管株式会社

新登場 環境に優しく、リサイクルが可能 **製品案内**
プルボイド
 PAT. APPLICATION 2002-109225
 スリーブ材材として、コンクリート工事の省力化、合理化のお役に立ちます。
抜き作業簡単 **抜き後のハツリ作業不要** **抜き後はリサイクル可能**

シングル管 赤管 50φ~200φ
特長
 取扱いやすく、ラクラク
 抜取り
 巻き取るだけでボイド管が取れるので、従来のボイドと違って抜き作業が簡単です。プルボイド専用巻取り器もあります。

ツイン管 赤・緑管 75φ~200φ
特長
 スライド式で現場作業の
 スピードアップを実現

業界初!
 巻取りながらの
 取り外しタイプの
 スリーブ管

内径50から209mm、豊富なラインナップ

積強筋にプルボイドを絡めた状態にして取り付け。
 鉄筋に仮止めて下さい。
 梁幅より短い為、梁落としのとき、仮枠にあたることは、ありません。
 鉄筋屋さんとの共同作業によって梁落としが始まっています。
 通常のボイド管は梁幅より短くするためガムテープ等を張らなければなりません。
 梁筋が落ちたら、貫通する芯に合わせワイヤーを引けば、簡単に装着出来ます。

同社の代表する土木用紙管製品「ホッカイボイド」(左)、「プルボイド」(右上)と「プルボイドの施工の様子」(右下)

紙管の製造は、北海道の名寄工場、春日都市の東京工場、そして福島県伊達市の福島工場で行っています。

古紙回収のサービスのブランド「HOKKAI MOKKAI」を展開

——紙を持って走る白ヤギとカラフルなロゴがかわいい「HOKKAI MOKKAI」は、どんなお考えで立ち上げられたブランドなのでしょう。

社長に就任した時に、事業を運営するに当たっての私の考えを表した「わが社はこうありたい」を作成し、社員に渡しています。その内容はつぎのとおりです。

- 苦労があろうとも「楽しい会社に」
- 働いている者や働いている者の家族、お客様が誇りに思える会社
- 公明正大に何事も行える会社

- 常にお客様の立場になって行動できる会社
- 常に考え、常に知恵を出し得る会社
- 先入観をすて、常に前向きに提案できる会社

こうした思いを抱きながら、2009年に古紙回収事業のイメージ新を図るためブランド「HOKKAI MOKKAI」を立ち上げました。社名からとった「HOKKAI」とリサイクルを意味する「MOKKAI (もう一回)」を組み合わせています。古紙回収ビジネスは、最近になって環境ビジネスとかエコとか言われるようになりました。しかし、社会的認知はまだまだそこまで行っていないように思うのです。そういった中でお付き合いをしてくださるお客様や働く社員が誇りを持てる会社にするを狙っています。その考えを実現させるためにどうしたらよいかと考えた結果がブランドづくりでした。カラフルなロゴや紙を持って走る白

ヤギに会社の意識や社員の目標などの思いを込めました。

社員からの提案が年間約1,000件ありますが、このロゴに関連するものがいろいろあります。いくつか紹介すると、パッカー車(ごみ収集車)

には白ヤギが描かれていて、

曲がる時には「左に曲がります。メェ～メェ～」と鳴きます。回収時に配るトイレトペーパーにもロゴを印刷。ついには東京工場では白ヤギ「かいくん」を飼うことになりました。工場の外から見ることもできて近所のお子さんに人気です。また、工場見学会には社員の子供たちを招き、パパとおそろいのジャンパーとヘルメットで仕事体験をしました。

——みんな社員のアイデアですか。どれも楽しくなるようなアイデアばかりで、親しみがもてますね。

「メェ～」と鳴くパッカー車は全国で100台ぐらい、埼玉では集荷ヤードのあるさいたま市西区佐知川付近と春日部市付近を走っています。このパッカー車を見た子供が「ほっかいもっかい」と叫んでいたという話を聞き、うれしくなりました。女子高校生などにも人気で、動画サイトなどでも見ることができます。



曲がる時に「右(左)に曲がります。メェ～メェ～」と鳴くカラフルなロゴや紙を持って走る白ヤギが描かれたパッカー車(ごみ収集車)

その他、札幌では「ほっかいもっかい杯スポーツGOMI拾い大会」を開催。スポーツGOMI拾いとは、予め定められたエリアで、制限時間内にチームワークでごみを拾い、ごみの量と質でポイントを競い合うスポーツです。2012年の第2回は、49チーム265名が参加し、合計305kgのごみが集まりました。

こうした様々な取り組みを通して、お客様や地域に親しまれる会社になっていきたいと思っています。

中国、天津で地元企業と合併会社設立 リサイクル品の発掘で事業の幅を拡大

——ブランド立ち上げのほか、海外に進出されたのも社長様が就任されてからですね。

現在、天津に現地企業との合併会社「天津日海輝陽再生資源回収有限公司」がありますが、実はそれには前段があって、最初は上海近郊の浙江省で独資の会社を設立しています。新規事業の開拓で、海外で古紙リサイクル事業に挑戦しようと2001年頃から中国に出入りを始めました。しかし、現地業者の力が強く許認可が下りず、紙管製造で許可を取るという形で2005年にやっと会社を設立。古紙リサイクル事業を始めましたが、天津で地元企業との合併の話が進み、そちらにシフトする形で浙江省は撤退しました。撤退は進出よりもはるかに難しく、非常に苦労も多く良い勉



おそろいのジャンパーとヘルメットをかぶる社員の子供向け工場見学会の様子

強をさせてもらいました。

——中国に進出しようとしたのは、古紙を日本から輸出するためですか。

地産地消というか地域で集めた古紙を地域の製紙メーカーに販売するのが基本ですが、人件費が安いところで

分別したほうが良いものについては輸出しています。

それから、日本は様々なものを輸入しています。輸入品の荷物の梱包に使われた段ボールは、生産国に戻さないと国内に古紙が溜まった状態になります。今ですと、20数パーセントの古紙を輸出しないと溢れる計算になります。——今後の事業展開について、お聞きします。

父（現会長）は、1990年代半ばから商社と組んで古紙リサイクル事業に取り組みました。同族やオーナー企業が多い中で商社という異業種の法人と組んで事業展開を行うというのはほとんど考えられないことでした。そうした中でいろいろな情報を得て、中国への進出も行われたわけです。

私の代では、これも業界ではあまり考えられないことですが、同業者と業務提携をして、全国どこでも手軽に古紙のリサイクルができるようにしました。それにより、古紙の取扱量は全国で5本の指に入るようになりました。——本来ならばライバルとなる同業者との連携のメリットは何ですか。

お客様の利便性を高めるためです。例えば、当社に依頼をしたら、北海道でも沖縄でもすぐに手配して、古紙のリサイクルに着手ができます。同業者との提携によって、広域のお



「第2回ほっかいもっかい杯スポーツ GOMI 拾い大会 in 札幌」も大盛況

客様とお話をする機会もできました。

お客様の声は「リサイクルできるものなのか廃棄物なのか区別するのが面倒」、「一本電話を入れればどこでも何でも処理してもらえると便利」、「これもリサイクルできるの」などです。これらのお客様の声に耳を傾けると、新しい事業展開などの構想が浮かんでくるのが分かったのです。

例えば、今までは産業廃棄物として処理費を払っていたポリプロンを素材とした梱包用のバンドや養生シート、これらもリサイクル可能な資源として当社では扱っています。産業廃棄物としての処理費の削減と ISO 関連などで環境目標値が設定されていればその達成につながるかもしれません。

また、古着などは東南アジアが主な輸出先だったために T シャツのような薄いものだけを扱い、北海道や東北で古着を扱う業者はほとんどありませんでした。しかし、輸出先が広がり、コートなどの古着も扱い始めました。燃やすよりリサイクルして有効活用される方がいいですね。

そのようにリサイクルできるものを発掘し、古紙だけでなく今まで以上にいろいろなものを商品化していくということが今後のテーマです。機密書類やパソコンのリサイクルをス

スタートし、同業者ではいち早く ISO27001 (情報セキュリティマネジメント) を本社及び青森営業所で取得しています。

また、スーパーマーケットなどと連携してリサイクルポイントシステムも始めました。お店に発券機と回収コンテナを置き、コンテナに新聞や雑誌を1kg入れると1ポイントが貯まり、500ポイントになるとお店の500円分のお買物券が出てくるシステムです。今はまだ全国で200台ぐらいですが、今後は設置する店の増加が見込まれています。

お客様や社員の声が会社の進むべき方向常に心の中にある言葉「フェアネス」

——経営理念、そして社員にはどんなことを期待されていますか。

経営理念は創業以来「誠実と信用をモットーに」、経営方針として「地球環境に対応」「地域共存」「顧客尊重」「現場主義」ですが、それに加えてすでにお話した私の思いである「わが社はこうありたい」を実践することです。

社員の提案も可能な限り形にしています。費用がかかるときには決断がいますが、「その分みんなでがんばろうよ」ということになればいいわけですから。それでも採用できないことは、その理由を提案者に丁寧に伝えています。お客様と社員の声をよく聴き、その声が会社の進むべき方向だと思います。

新人の採用にも力を入れ、これまでは新卒採用は札幌だけで行ってきましたが、2013年は東京でも説明会を行っています。

——座右の銘は何ですか。

「公明正大」です。結婚式のスピーチで先輩から頂いた「フェアネス」という言葉がずっと自分の中に残っています。私生活にも使

我が社は、白ヤギを飼っています。



2011年2月 春日部営業所(埼玉県)にて



えるし、経営にも生かされる言葉です。言葉が好きというよりもそういった精神で生きたい、公明正大でありたいと思っています。

——古紙と紙管の循環から、紙管は徹底的に資源を有効活用した商品であることを学びました。HOKKAI MOKKAI ブランドを中心に笑顔とリサイクルの輪がどんどん広がっていく予感がします。

本日は、ありがとうございました。

北海紙管株式会社

創 業	1958年
設 立	1968年
資 本 金	3億円
売 上 高	124億円 (2012年3月期)
従 業 員	336名 (2012年3月末日)
本 社	〒004-0841 札幌市清田区清田1条3-7-14
電 話	011-882-7761(代)
東京工場	〒344-0057 春日部市南栄町15-9
電 話	048-761-1291(代)
ホームページ	http://www.hokkai-s.co.jp/
取 引 店	春日部支店